

○計画期間：平成27年1月～令和2年3月（5年3月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成27年1月以降、認定計画に基づき、「来たい<sup>まち</sup>都心」「住みたい<sup>まち</sup>都心」「参加したい<sup>まち</sup>都心」といった三つの基本目標を設定し、各事業を実施しており、徐々にではあるがまちなかの活性化を回帰する傾向となるなど、中心市街地のにぎわいが創出されてきている。

本市では、平成22年4月に「浜松まちなかにぎわい協議会」が設立し、当該協議会が運営するコミュニティスペース「Any」が平成27年11月にオープンし、「Any」を拠点とした各種ワークショップの開催や肴町商店街を会場とした「まるたま市」等の各種イベントを通して、起業希望者の掘り起しやまちなかにぎわいが創出され、自らが積極的にまちづくりに参加する関係者が増えてきている。

本市中心市街地のメインストリートである「鍛冶町大通り」の将来の理想像を検討する「中心市街地の発展と役割を考える会」では、鍛冶町アクティビティセンター（ワークショップ）を継続開催し、基本構想案の検討と街並みの将来像を視える化した模型展示を通して市民からのアンケート調査を行った。さらには、ワークショップにて提案された「100のアイデア」を踏まえた複合イベント「かじまちオン[オア]オフ!!」を開催し、まちなかを盛り上げたいプレイヤーを発掘するとともに市民主体のまちづくり検討も進み始めている。

観光面については、大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、浜松市の魅力を詰め込んだ魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」が浜松駅近くに平成31年1月6日にオープンした。「ビーチ・マリンスポーツ」や「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーによる集客、「レンタサイクルステーション」「手荷物預かり」「観光案内サービス」を設置し、中心市街地はもとより本市の玄関口として集客・回遊の拠点機能となるとともに、にぎわいの創出に大きく寄与している。

一方で、鍛冶町地区再生事業における旧松菱百貨店跡地については、更地の状態が続いており、平成29年2月に再開発事業者に対し事業計画提出等の勧告を行ったが、具体的な事業計画案の提出には至っていないことから、引き続き事業者に対して事業計画の提出及び事業着手を促していく。

今後は、様々な事業で発掘・育成された人材を支援し、民間活力を最大限活用しながら、中心市街地の新たな魅力づくりに取り組み、活性化を図っていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成25年度 (計画前年度)	平成26年度 (1年目)	平成27年度 (2年目)	平成28年度 (3年目)	平成29年度 (4年目)	平成30年度 (5年目)
人口	11,256	11,566	11,627	11,681	11,770	11,813
人口増減数	△102	△5,410	+5,781	+54	+89	+43
自然増減数	△16	△43	+14	△11	△51	△45
社会増減数	△1	△6	+32	△68	△67	△133
転入者数	926	880	886	788	717	745

**2. 平成30年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

浜松市と協議会で定期的に幹事会作業部会を開催し、事業の検討を行うなど官民が密接な連携を行って取り組むことができた。

特に、幹事会作業部会の議論から、鍛冶町通りを市民が集い、活躍するステージに再生することが必要との認識のもと、民主体の検討組織として発足した「浜松市中心市街地の発展と役割を考える会」が進めている。

平成30年度は、ワークショップや各種ヒアリングした意見等を基に、鍛冶町通りの将来像のモデルを作成し、「Any」にて展覧会を開催し、広く市民の意見を収集した。また、当会によって作成した冊子「100のアイデアブック」を基に、空きビルの活用及び鍛冶町通りの歩道の一部に人工芝を敷くなどした、活用方法を検討するイベントを開催した。まちなかを盛り上げたいプレイヤーも発掘でき、民主体のまちづくりの検討が進んでいるなかで、まちづくりの担い手となる人材発掘が高まり、積極的に行動を起こす状況が好ましいとの意見があった。

令和元年度は、「鍛冶町通りのあり方(将来像)」を、浜松市中心市街地活性化基本計画最終年度にあたるため、将来像の実現に向け広く関係諸団体に提案・要望を行っていく。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
来たい都心 ～にぎわいのある魅力あふれる空間の創出～	歩行者 通行量 (休日)	99,392 人 (H26)	109,300 人 (H31)	102,049 人 (H30)	B	①	①
	公共施設 入場(来場) 者数	1,493,078 人 (H25)	1,550,000 人 (H31)	1,502,660 人 (H30)	B	①	①
住みたい都心 ～快適な都心生活空間の創出～	中心市街地 の 居住人口	11,359 人 (H25)	13,100 人 (H31)	11,832 人 (H30)	B	①	①
参加したい都心 ～市民協働による浜松型 都心経営モデル～	空き店舗 区画数 (対象地域: 都市再生緊急整備地 40ha)	71 区画 (H26)	53 区画 (H31)	87 区画 (H30)	C	④	④
	<参考指標 >法人数 (対象地域: 計画区画 220ha)	1,152 社 (H26)	1,167 社 (H31)	1,186 社 (H30)	A	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」については、中心市街地の大型商業施設のリニューアルや静岡DCキャンペーン、ラグビーワールドカップ2019などまちなかへの集客が期待でき、オール浜松でまちなかを盛り上げるための回遊促進を図っていくことから、目標達成可能であると見込まれる。

「公共施設入場者数」については、平成27年度から平成29年度まで目標値は達成していたが、浜松科学館がリニューアル工事のため一年間閉館していたこともあり未達であった。令和元年7月に浜松科学館がリニューアルオープンすることや、アクトシティ浜松が25周年を迎えることで25周年イベントを企画していることから、目標達成可能であると見込まれる。

「居住人口」については、浜松駅最前列に静岡県内最高層のタワーマンションの完成が近いことや本計画事業による居住空間の整備等が実施されれば、目標達成可能であると見込まれる。

「空き店舗区画数」については、依然として目標値との差が大きい状況である。リノベーション物件増加に伴う入居拡大等の措置を官民連携し執り行い目標値を目指しているが、現状において目標達成が厳しい状況にあり、今後対策を講じる必要がある。

しかしながら、「法人数」については中心市街地のオフィスビルへ進出する企業が増えているため目標達成をしている。

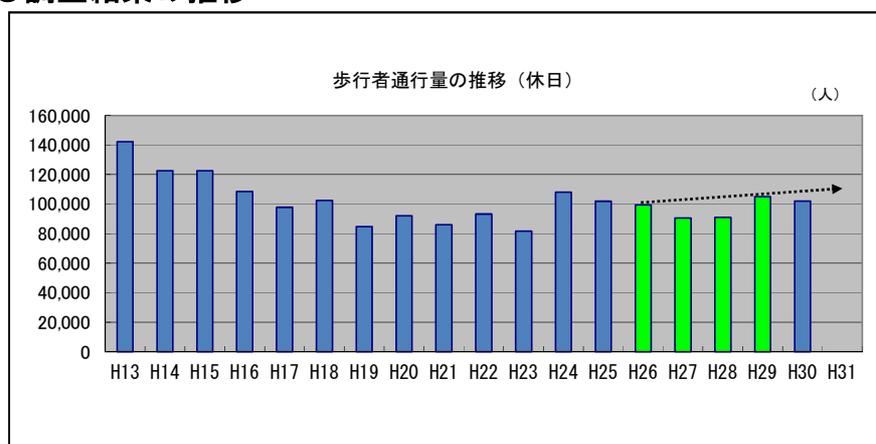
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

変更ありません。

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 97～P. 100 参照

#### ●調査結果の推移



年	(単位:人)
H26	99,392 (基準年値)
H27	90,313
H28	90,958
H29	105,102
H30	102,049
R1	109,300 (目標値)

※調査方法：調査員が数取器を用い調査地点（26地点）を通過する歩行者を休日10～20時の10時間計測

※調査月：平成30年10月

※調査主体：浜松市

※調査対象：歩行者通行量対象の8地点

(①ザザシティ浜松西館、②旧松菱、③松菱通り、④Cビル前、⑤遠州鉄道新浜松駅下、⑥プレスタワー前、⑦JR浜松駅北口、⑧遠鉄百貨店東側を通過する中学生以上の歩行者数（自転車、車いす等を含む）)

#### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

##### ①. 浜松城公園整備事業（浜松市）

事業実施期間	平成23年度～令和元年度【実施中】
事業概要	浜松城公園の歴史的価値の顕在化を図るため、「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省） （平成26年度～令和元年度）
事業効果及び進	当初計画通り順調に進捗しており、平成30年度も南エントランス

捗状況	ゾーンの実施設設計及び富士見櫓周辺の整備に向けた石垣調査等を実施した。また、平成30年度の浜松城天守閣への入場者数は199,544人（前年度278,632人）と昨年度に比べて大きく減少した。要因としては、大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送の影響が大きく、例年並みの来場者数に戻った。
事業の今後について	引き続き「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。

②. アクトシティ浜松管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成6年度～令和元年度【実施中】
事業概要	「音楽の都づくり」の拠点施設であるアクトシティ浜松を効果的に活用し、文化的価値と市民需要の両面を満たした多くの芸術文化事業を展開し、にぎわいのある魅力溢れる空間を創出することで中心市街地活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度の入場者数は861,216人（前年度799,263人）と増加。3年に1回開催される浜松国際ピアノコンクール等の大型イベントが開催され、世界の音楽文化の振興、国際交流の推進拠点となっている。
事業の今後について	令和元年度に25周年を迎え、25周年イベントを多数企画しており、なかでも「浜松恐竜ワールド2019」には集客を見込んでいる。楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業も継続していく。

③. 楽器博物館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成7年度～令和元年度【実施中】
事業概要	「楽器収集・保存・調査・展示と音楽文化の向上」、「音楽の都づくり」、「世界都市浜松としての情報発信と音楽文化への貢献」に寄与する事業を実施することで、中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度の入場者数は87,902人（前年度87,370人）とほぼ横ばいにて推移している状況。近年では周辺イベントの集客に左右される状況もなくなってきたが、国内では珍しい博物館という強みを活かし今後とも運営していく方針。
事業の今後について	当該施設は、日本で唯一の公立楽器博物館であり、本年度で開館25年目となる。今世界的に変わりつつある博物館の流れの中で、開館25周年を視野に入れ、新たな楽器博を構築し、来場者数の増加を図るとともに中心市街地の活性化に寄与していく。

④. 浜松こども館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成13年度～令和元年度【実施中】
事業概要	遊びを通じた多様な社会・文化体験と交流機会の提供を目的に、遊び・創造・展示が体験できる文化施設として、年齢の異なる子どもたちに幅広く交流できる機会を提供し、児童の健全育成を図るとともに、子育て支援機能を持った複合施設を管理運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年度、反響の良かった「ここ・い〜ら なんでも体験し隊」を平成30年度は長期間の開催を図るなど、多数のイベント開催や、定期顧客獲得を狙いとしたSNSによる最新情報の提供などにより、平成30年度の来場者数は228,702人（前年度206,264人）となり、順調な集客効果を生んでいる。当初目標設定時の最終目標増加人数9,000人を上回る約58,000人の来場者数増加となっており、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	令和元年度、開館初の大規模修繕と清掃を行う。 休館時期があり来場者数は減少すると思われるが、リニューアル後の集客を見込んだイベントを多数企画し、まちなかで子育て支援機能を持った複合施設として、更なる中心市街地の活性化を図る。

⑤. 浜松市美術館管理・運営事業（浜松市）

事業実施期間	昭和46年度～令和元年度【実施中】
事業概要	創造的な活動との出会いを通して、人々に交流の場を提供し、市民が心豊かで文化的な生活を享受できる美術館を目指すことで、中心市街地活性化を図っていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度の来場者数は101,575人（前年度36,352人）と大幅に増加し、これは昭和57年ぶりに10万人を超える来場者数となった。昨年度、新たな美術館へと生まれ変わったことにより、施設整備をしたことでイベントの幅が広がり、ジブリ展や子どもの市展には多くの方が来場した。
事業の今後について	新たな美術館へと生まれ変わり、施設における空調等の施設整備が改善され、イベントの幅が大きく広がった。今年度においても、上村松園展や木梨憲武展を開催するなど、今後もより一層のにぎわい創出を図っていく。

⑥. 観光客誘致等事業（浜松市）

事業実施期間	平成25年度～令和元年度【実施中】
事業概要	多彩な地域資源を活かした観光地づくりをはじめ、産業観光の推進と観光プロモーションの強化、インバウンド戦略の推進に関する事業を実施。県内外からの交流人口を増加させ、中心市街地の賑わいのある魅力溢れる空間の創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、浜松市の魅力を詰め込んだ魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンした。3月までの来場者数はおよそ4万人であった。「ビーチ・マリンスポーツ」や「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーや「レンタサイクルステーション」、「手荷物預かり」や「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにきわいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	令和元年度は、DCキャンペーンやラグビーワールドカップ2019ファンブースと多くの来街者が期待される。「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を情報発信拠点とし、中心市街地に限らず、浜松市全体の魅力や情報を発信していく。また、レンタサイクルや手荷物預かりを活用し、浜松市全体の回遊促進も図っていく。

⑦. 都心ゲートパーク北地区整備事業（浜松市）

事業実施期間	平成18年度～令和元年度【実施中】
事業概要	鉄道高架下の公共空間である都心ゲートパーク北地区を見直し、中心市街地の回遊性向上を図り、新たな集客拠点として再整備していく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、浜松市の魅力を詰め込んだ魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンした。情報発信拠点にとどまらず、イベント開催をするなど、3月までの来場者数はおよそ4万人であり、中心市街地への集客や中心市街地周辺への回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	浜松ならではの展示コーナーやコンテンツ、さらには、イベント開催も企画するなどし、さらなる集客を図っていく。また、来場者に中心市街地の魅力や情報を発信し、回遊性の向上に寄与していく。

⑧. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度も、まるたま市を引き続き開催した。出店数は202店舗（前年度206店舗）ならびに来場者数 18,900 人（前年度12,900 人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。（平成29年度は台風のため2日目の半日中止。）一方、当初目標設定時の最終目標区画数 5 件に対し、未だ事業化につながったものはなく進捗に滞りが発生している。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携を検討していく。
事業の今後について	まるたま市は出店者、新規出店者、来場者いずれも順調に増えており、起業候補者の育成に大きく寄与している。今後も継続していくなかで、他事業や商店街とさらに連携を深めていく。

⑨. 公共空間の利活用推進事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
事業概要	バスターミナル地下広場、アクト通り、鍛冶町大通り、新川緑地等をにぎわい創出を目的とした公共空間として積極的に活用し、民間活力を最大限に発揮できる体制により当該空間を運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	月に1回朝市を開催しているアクト通りでは、地元自治会や学生の協力もあり出店者数が増加中、来場者数についても年間5,600人（前年度 5,500人）と徐々に増加しており、地域に根差したイベントとなってきている。また、新たなにぎわい創出の場として新川緑地の再整備を検討していく方針。
事業の今後について	アクト通りで開催している朝市は、出店者および来場者ともに順調に伸びており、地域に根差したイベントになっている。また、周辺イベントと連携を図り回遊性も向上してきた。今後も引き続きイベントを実施することで集客やにぎわいの創出を図る。

⑩. シティプロモーション事業（浜松市）

事業実施期間	平成24年度～令和元年度【実施中】
事業概要	『出世の街 浜松』のPRに重点を置いた一貫性やストーリー性のあるシティプロモーションを実施すると共に、徳川家康公関連のイベント事業や、出世城と言われる浜松城を中心に回遊性を高めることにより、賑わいのある魅力溢れる空間の創出を目標とし、中心市街地の活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、浜松市の魅力を詰め込んだ魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーを設置するなど3月までの来場者数はおよそ4万人であった。 「レンタサイクルステーション」「手荷物預かり」「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を拠点とし、中心市街地に限らず、浜松市全体の魅力や情報を発信していく。また、レンタサイクルや手荷物預かりを活用し、徳川家康公関連のイベント事業や、出世城と言われる浜松城を中心に回遊性を図っていく。

⑪. 鍛冶町大通り利活用調査検討事業（自治会及び商店街）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	中心市街地のメインストリートである鍛冶町大通りの再生及びにぎわい創出のため、地元自治会及び商店街の民間活力を最大限に活用し、当該通りの利活用を含めた将来像を調査、検討することで、今後の中心市街地活性化の体制強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	鍛冶町大通り再生の具体的アイデアを出し合うワークショップ「鍛冶町大通りアクティビティセンター」を創出。このワークショップの情報をもとに活用や整備の構想を「短期・中期・長期」の3段階で表現する模型と「100のアイデアブック」を製作・展示し、市民からのアンケート調査を行った。 まちづくりコーディネーター共に、まちなかを盛り上げるプレイヤーを発掘し「100のアイデア」を基にイベントを開催した。地元が主体となり大通りの将来像の構築を実施している状況。
事業の今後について	模型を作成・展示しアンケート調査をしたことで市民のニーズを捉

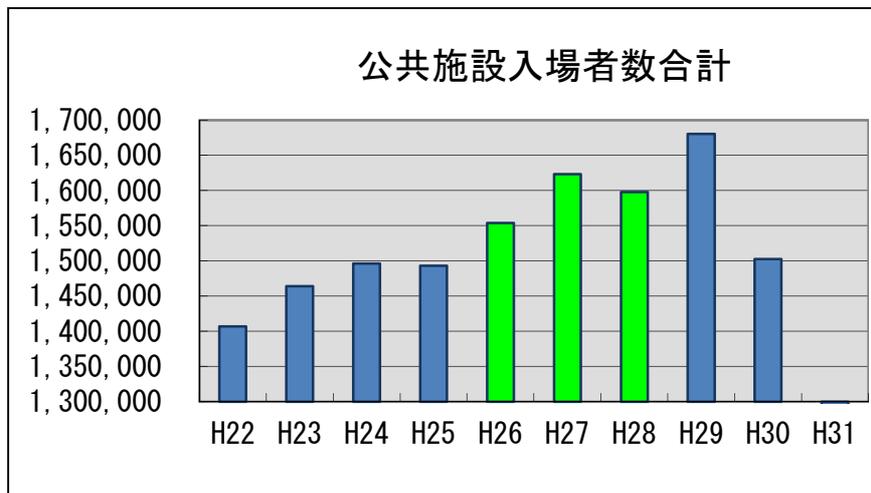
いて	えることができた。また、まちなかを盛り上げたいというプレイヤーの発掘もできた。イベントを通じて大通りの活用方法なども模索した。これらを活かした事業を展開していく。
----	---

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、各種事業を継続的に取り組んでいくとともに、まちなかの魅力創出と日常的な来場者の獲得に注力していく。また、新たなにぎわい創出の場となる交流拠点の整備実施や、各種イベントの連携等による回遊を促進させるなど、目標達成に向け総合的な取り組みを実施していく。

「公共施設入場（来場）者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 101～P. 104 参照

●調査結果の推移



年	(単位:人)
H25	1,493,078 (基準年値)
H26	1,553,917
H27	1,622,979
H28	1,597,676
H29	1,680,218
H30	1,502,660
R1	1,550,000 (目標値)

※調査方法：各施設へ利用者数実績を聞き取り調査

※調査月：平成31年4月

※調査主体：浜松市

※調査対象：各施設の利用者数（一部施設、託児人数を除く）

○中心市街地周辺の主な公共施設入場者数実績（単位：人）

施設	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
浜松城	127,725	159,458	168,441	165,026	185,072	214,396	241,834	278,632	199,544
浜松科学館	217,940	179,997	197,229	210,953	228,412	240,569	210,228	246,694	0
楽器博物館	79,621	81,371	88,591	87,898	86,605	96,236	88,139	87,370	87,902
浜松こども館	183,518	184,532	169,819	171,055	181,050	203,265	207,058	206,264	228,702
浜松市美術館	79,786	67,119	53,614	72,157	85,356	38,724	52,196	36,352	101,575
アクトタワー展望回廊	29,219	27,162	25,459	25,211	24,393	23,391	26,685	25,643	23,721
アクトシティ (ホール・会議室)	688,967	764,405	793,062	760,778	763,029	806,398	771,536	799,263	861,216
公共施設入場者数	1,406,776	1,464,044	1,496,215	1,493,078	1,553,917	1,622,979	1,597,676	1,680,218	1,502,660

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 浜松城公園整備事業（浜松市）【再掲】

事業実施期間	平成23年度～令和元年度【実施中】
事業概要	浜松城公園の歴史的価値の顕在化を図るため、「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省） （平成26年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	当初計画通り順調に進捗しており、平成30年度も南エントランスゾーンの実設計及び富士見櫓周辺の整備に向けた石垣調査等を実施した。また、平成30年度の浜松城天守閣への入場者数は199,544人（前年度278,632人）と昨年度に比べて大きく減少した。要因としては、大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送の影響が大きく、例年並みの来場者数に戻った。
事業の今後について	引き続き「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に基づき浜松城の整備を行い、来街者の増加及び中心市街地の活性化を図る。

②. 浜松こども館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成13年度～令和元年度【実施中】
事業概要	遊びを通じた多様な社会・文化体験と交流機会の提供を目的に、遊び・創造・展示が体験できる文化施設として、年齢の異なる子どもたちに幅広く交流できる機会を提供し、児童の健全育成を図るとともに、子育て支援機能を持った複合施設を管理運営することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年度、反響の良かった「ここ・い〜ら なんでも体験し隊」を平成30年度は長期間の開催を図るなど、多数のイベント開催や、定期顧客獲得を狙いとしたSNSによる最新情報の提供などにより、平成30年度の来場者数は228,702人（前年度206,264人）となり、順調な集客効果を生んでいる。当初目標設定時の最終目標増加人数9,000人を上回る約58,000人の来場者数増加となっており、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	令和元年度、開館初の大規模修繕と清掃を行う。 休館時期があり来場者数は減少すると思われるが、リニューアル後の集客を見込んだイベントを多数企画し、更なる来場者数の増加を図るとともに、まちなかで子育て支援機能を持った複合施設として中心市街地の活性化を図る。

③. アクトシティ浜松管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成6年度～令和元年度【実施中】
事業概要	「音楽の都づくり」の拠点施設であるアクトシティ浜松を効果的に活用し、文化的価値と市民需要の両面を満たした多くの芸術文化事業を展開し、にぎわいのある魅力溢れる空間を創出することで中心市街地活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度の来場者数は861,216人（前年度 799,263人）と増加。3年に1回開催される浜松国際ピアノコンクール等の大型イベントが開催され、世界の音楽文化の振興、国際交流の推進拠点となっている。
事業の今後について	今年度で25周年を迎え、25周年イベントを多数企画している。なかでも「浜松恐竜ワールド2019」には集客を見込んでおり、来場者数の増加を図る。また、楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業も継続していく。

④. シティプロモーション事業（浜松市）

事業実施期間	平成24年度～令和元年度【実施中】
事業概要	『出世の街 浜松』のPRに重点を置いた一貫性やストーリー性のあるシティプロモーションを実施すると共に、徳川家康公関連のイベント事業や、出世城と言われる浜松城を中心に回遊性を高めることにより、賑わいのある魅力溢れる空間の創出を目標とし、中心市街地の活性化を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、大河ドラマ「いだてん」の放送を機に、浜松市の魅力を詰め込んだ魅力発信館「The GATE HAMAMATSU（ザ・ゲート・ハママツ）」を2019年1月6日にオープンし、「いだてん」の世界観が味わえる展示コーナーを設置するなど3月までの来場者数はおよそ4万人であった。 「レンタサイクルステーション」「手荷物預かり」「観光案内サービス」も受けられ、浜松の情報発信拠点として、中心市街地に限らず、浜松市全体のにぎわいや回遊性の向上に寄与した。
事業の今後について	浜松ならではの展示コーナーやコンテンツ、さらには、イベント開催も企画するなどし、さらなる集客を図っていく。また、来場者に中心市街地の魅力や情報を発信し、まちなかへの集客と回遊性の向上に寄与していく。

⑤. 楽器博物館管理・運営事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成7年度～令和元年度【実施中】
事業概要	「楽器収集・保存・調査・展示と音楽文化の向上」、「音楽の都づくり」、「世界都市浜松としての情報発信と音楽文化への貢献」に寄与する事業を実施することで、中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度の来場者数は87,902人（前年度87,370人）とほぼ横ばいにて推移している状況。近年では周辺イベントの集客に左右される状況もなくなってきたが、国内では珍しい博物館という強みを活かし今後とも運営していく方針。
事業の今後について	当該施設は、日本で唯一の公立楽器博物館であり、本年度で開館25年目となる。今世界的に変わりつつある博物館の流れの中で、開館25周年を視野に入れ、新たな楽器博を構築し、来場者数の増加を図るとともに中心市街地の活性化に寄与していく。

⑥. 浜松こども館を核としたまちなか子育て支援事業（浜松市・指定管理者）

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
事業概要	これからの中心市街地をつくるのは、これからの子どもたちというコンセプトのもと、多くの子ども達が来場する浜松こども館を有効活用し、良き思い出をつくることで中心市街地への愛着を育てていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	浜松こども館の平成30年度の来場者数は228,702人（前年度206,264人）となり、順調な集客効果を生んでいる。子育て世代の親たち目線による企画立案運営を行っており、こども館の中だけではなく、街中へ出ていくイベントも開催されており中心市街地活性化に寄与している。
事業の今後について	こども館への来場者数は順調に伸びている。周辺イベントと連携を図り、こども館を拠点にまちなかでの体験事業など今後も企画をしており、さらなる集客とまちなかへの回遊促進を図っていく。

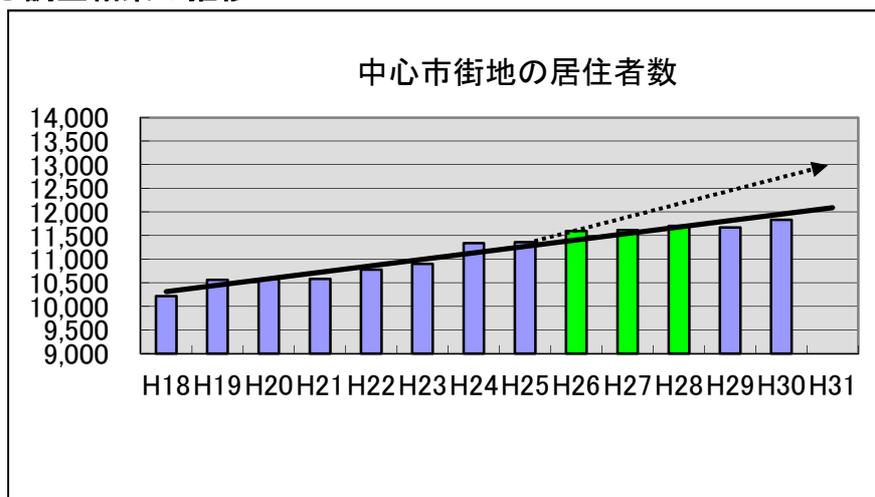
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。今後は、平成30年度に閉館していた浜松科学館がリニューアルオープンすることや、浜松美術館もリニューアルオープン後、設備環境が変わりイベントの幅が広がったことで順調に来場者数を増やしているなど目標達成は可能だと思われる。

また、令和元年度は、DCキャンペーンやまちなかにラグビーワールドカップ2019ファンブースが設置されるなどまちなかへの集客が期待できるため、オール浜松で連携し各施設への回遊性を図り実績を伸ばしていきたい。

「中心市街地の居住人口」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 105～P. 107 参照

●調査結果の推移



年	(単位:人)
H25	11,359 (基準年値)
H26	11,593
H27	11,614
H28	11,707
H29	11,670
H30	11,832
R1	13,100 (目標値)

※調査方法：浜松市人口統計情報による（住民基本台帳による情報）

※調査月：平成31年4月

※調査主体：浜松市

※調査対象：認定区域居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 旭・板屋A地区第一種市街地再開発事業（旭・板屋A地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	市街地再開発事業により、本地区における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新及び集積を図り、駅正面に都心拠点を形成することで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成27年度～令和元年度
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、A-1地区の建築工事を開始した。当初の計画では平成30年度中の完了予定であったが、現在も工事が継続している状況であり、令和元年度の完了を目指している。
事業の今後について	今後は、A-1地区の工事とA-2建築工事を完了させる。本事業により、当初目標設定時の最終目標戸数246戸が確保される予定。駅正面に都心拠点を形成し、中心市街地の活性化を図る。

②. 常磐町優良建築物等整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	中心市街地への居住ニーズが高まる中、土地の高度利用を図り、本地区における快適な居住空間を提供する。 居住機能を高めることは「快適な都心生活空間の創出」を目標とする中心市街地の活性化に資する事業である。
国の支援措置名	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）

及び支援期間	平成27年度～令和元年度
事業効果及び進捗状況	平成29年度に着手した第1期工事を平成30年度も引き続き実施しており、令和元年度の工事完了に向け順調に進捗している。
事業の今後について	令和元年度の工事完了に向け順調に進捗している。本事業により、当初目標設定時の最終目標戸数172戸が確保される予定。快適な都心生活空間の創出することで中心市街地の活性化を図る。

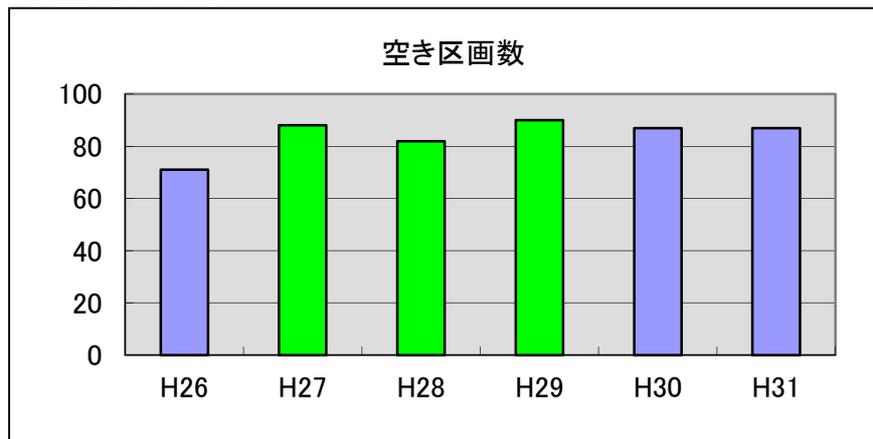
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗している。これまで同様、民間事業者によるマンション建設等により、中心市街地の居住人口はほぼ前年並みの状況である。本計画事業自体も当初計画通りに進んでいる。浜松駅最前列に静岡県内最高層のタワーマンションが完成予定であるため、それらによる周辺環境の変化に伴い、居住人口の増加が見込まれるため、目標達成は可能だと思われる。

「空き店舗区画数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 108～P. 110 参照

※対象地域：都市再生緊急整備地域40ha

### ●調査結果の推移



年	(単位:区画)
H26	71 (基準年値)
H27	88
H28	82
H29	90
H30	87
R1	53 (目標値)

※調査方法：調査員が住宅地図を基に実際対象箇所を回り確認

※調査月：平成30年10月

※調査主体：浜松市

※調査対象：都市再生緊急整備地域40ha内の空き区画

### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ① 都心既存ストックの利活用事業（浜松市・まちづくり組織）

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
事業概要	都心の遊休不動産（既存ストック）の活用を目指して、地域の実情にあったリノベーション等による商業等の業務機能の再生を図るとともに、サブリース事業の実施主体となる組織及び人材を育成し、継続的な事業実施を目指すことで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、リノベーションスクールを中心として都心の遊休不動産の活用及びまちづくりの担い手の発掘・育成を図った。（平成29年度：4物件中4件事業化、平成30年度：3物件中3件検討中）また、浜松家守育成トレーニングを2回開催し、リノベーションまちづくり専門家の協力の元、事業実現に向けた行動を実施している。
事業の今後について	今後もリノベーションスクールを中心として都心の遊休不動産の活用及びまちづくりの担い手の発掘・育成を図っていく。また、浜松家守育成トレーニング等も引き続き開催し、リノベーションまちづくり専門家の協力の元、事業実現に向けた行動を継続し、中心市街地の活性化を図る。

②. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～令和元年度【実施中】
事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度も、まるたま市を引き続き開催した。出店数は202店舗（前年度206店舗）ならびに来場者数 18,900人（前年度12,900人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。（平成29年度は台風のため2日目の半日中止。）一方、当初目標設定時の最終目標区画数5件に対し、未だ事業化につながったものはなく進捗に滞りが発生している。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携を検討していく。
事業の今後について	まるたま市は出店者、新規出店者、来場者いずれも順調に増えており、起業候補者の育成に大きく寄与している。今後も継続していくなかで、他事業や商店街とさらに連携を深めていく。

③. 浜松こども館を核としたまちなか子育て支援事業（浜松市・指定管理者）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
事業概要	これからの中心市街地をつくるのは、これからの子どもたちというコンセプトのもと、多くの子ども達が来場する浜松こども館を有効活用し、良き思い出をつくることで中心市街地への愛着を育てていく。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	浜松こども館の平成30年度の来場者数は228,702人(前年度206,264人)となり、順調な集客効果を生んでいる。子育て世代の親たち目線による企画立案運営を行っており、こども館の中だけではなく、街中へ出ていくイベントも開催されており中心市街地活性化に寄与している。
事業の今後について	こども館への来場者数は順調に伸びている。周辺イベントと連携を図り、こども館を拠点にまちなかでの体験事業など今後も企画をしており、さらなる集客とまちなかへの回遊促進を図っていく。

#### ④. 浜松市商店街魅力アップ支援事業（浜松市）

事業実施期間	平成22年度～令和元年度【実施中】
事業概要	商店街の活性化を目的として、商業者が自ら課題を抽出し、課題解決のために考え実行することで、中心市街地活性化の商業者による主体者形成及び賑わい創出に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成27年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、新規補助件数8件、4,623千円（前年度3件、3,827千円）の実績となった。補助件数としては昨年度より増え例年並みに戻った。
事業の今後について	今後も商店街からのニーズ等意見を集約し、より活用し易い制度にしていく。

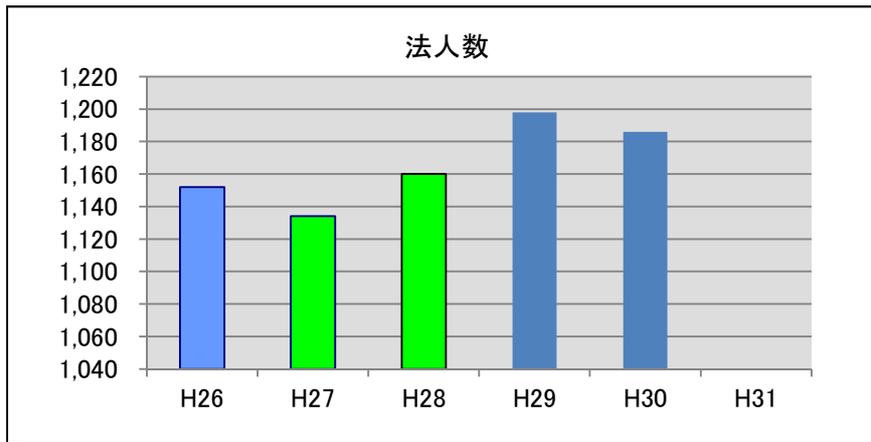
#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業自体は進捗しているものの、高齢化による閉店や老朽化によるビルの取り壊しなど、事業効果に結び付いていない現状であり、目標達成は厳しいと思われる。今後は、地元企業と連携し、新たな商店街の形成やにぎわい創出が図れるよう検討していく。一方で、まるたま市や浜松こども館の来場者数は年々増えており、まちなかへの集客効果やクリエイターやまちづくりの担い手の発掘や育成には大きく寄与している。

今後もリノベーションや浜松商店街魅力アップ支援事業を活用しながら、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築し、効果に結びつけていく。

「法人数（参考指標）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 111～P. 112 参照

●調査結果の推移



年	(単位:社)
H26	1,152 (基準年値)
H27	1,134
H28	1,160
H29	1,198
H30	1,186
R1	1,167 (目標値)

※調査方法：法人市民税を申告している法人のうち計画区域内に属する法人数を抽出

※調査月：平成31年1月

※調査主体：浜松市

※調査対象：法人市民税を申告している計画区域内の法人

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 都心既存ストックの利活用事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
事業概要	都心の遊休不動産（既存ストック）の活用を目指して、地域の実情にあったリノベーション等による商業等の業務機能の再生を図るとともに、サブリース事業の実施主体となる組織及び人材を育成し、継続的な事業実施を目指すことで中心市街地の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、リノベーションスクールを中心として都心の遊休不動産の活用及びまちづくりの担い手の発掘・育成を図った。（平成29年度：4物件中4件事業化、平成30年度：3物件中3件検討中）また、浜松家守育成トレーニングを2回開催し、リノベーションまちづくり専門家の協力の元、事業実現に向けた行動を実施している。
事業の今後について	今後もノベーションスクールを中心として都心の遊休不動産の活用及びまちづくりの担い手の発掘・育成を図っていく。また、浜松家守育成トレーニング等も引き続き開催し、リノベーションまちづくり専門家の協力の元、事業実現に向けた行動を継続し、中心市街地の活性化を図る。

②. 創造都市浜松推進事業（浜松市・まちづくり組織）【再掲】

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【実施中】
--------	-------------------

事業概要	官民が連携して遊休不動産のリノベーション等によるインキュベーター施設、シェアオフィス等を設置・運営するとともに、雑貨市『まるたま市』を開催しながら、将来、中心市街地で創業するクリエイター等の掘り起こしや誘発を推進していくことで、中心市街地に好循環を生み出す仕組みを構築する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度も、まるたま市を引き続き開催した。出店数は202店舗（前年度206店舗）ならびに来場者数 18,900 人（前年度12,900 人）と年々定着してきており、起業候補者の発掘・育成に寄与している事業と言える。（平成29年度は台風のため2日目の半日中止。）一方、当初目標設定時の最終目標区画数5件に対し、未だ事業化につながったものはなく進捗に滞りが発生している。商店街等への新規出店数の増加に繋げることが課題となっているため、他事業とも連携を検討していく。
事業の今後について	まるたま市は出店者、新規出店者、来場者いずれも順調に増えており、起業候補者の育成に大きく寄与している。今後も継続していくなかで、他事業や商店街とさらに連携を深めていく。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、商店街への出店者を増加させるため、他事業との連携を検討し、中心市街地全体に効果を波及させていく。